

「組織横断」のハブに

GovTech東京副理事長兼CAO 高野克己

——副理事長として屋台骨を支える役割ですね。

私は副理事長として理事長を補佐しながら、全体を取りまとめる位置づけに加えて、都庁や都内62区市町村のDXを推進していくフロント部隊となるDX協働本部と、経営管理本部やデジタル人材本部といったバックオフィス系を所掌しています。

——デジタル人材本部の具体的な取り組みは。

GovTech（ガブテック）東京（GTT）の人事だけでなく、東京都の行政組織全体のデジタル人材をどう育てていくか、どんな能力やスキルを身に付けるべきかを、都庁の専管部署と連携しながら技術的な側面から担っている部隊です。

——デジタルの専門家集団として人材確保は肝です。

役所の採用は希望者に応募してもらいますが、デジタル系の人材はただ待っている状態ではありません。目に留めてもらうよう個別にアプローチしていく必要があります。

デジタル業界は転職してスキルアップする人も多いので、GTTが自分の学びにつながるか、成長できるかといった、技術者に「ひびく」アプローチが必要です。加えてGTTが目指す公共マインド的な部分の認識のすり合わせを重視しています。

——中期経営計画では全国の自治体に人材を送り出す使命も掲げました。

GTTは5年間の有期雇用なので、その中で自分の学びや経験も含めてステップアップしてもらい、卒業と同時に経験とノウハウを外の世界で生かしてもらいたいという考えです。行政のDXはGTTだけでは達成できないので、出身者が巣立った先で影響力を発揮してもらえると面的な広がりが大きくなるというイメージです。

デジタルの世界は物理的な距離を超えるので、GTTに集積した人たちの知見を地方に落とし込んでいくことができると思っています。今回の中期経営計画では「首都から未来を変える」という言葉で表現しています。

——都議会3定の知事の所信表明で政策DXという話もありましたが、今後は一組織のDXだけではなく、横連携のDXが重要になります。

デジタルの世界では、最終的なアウトプットはシステム

化などですが、考え方の基本は業務の形を今に合ったものにどうできるかという発想です。人口減少社会の中、公務職場は今後、少ない人員体制で多くの課題に向き合っていくかなければならない。そして我々の仕事の先には都民の方々がいると意識することがより重要になってきます。人が少なくなってくるからこそ、政策DXのように組織横断で進めることが必要になります。公務職場では組織の壁を越える意識を常日頃から持つことが必要です。

——組織横断に向けたGTTの役割は。

GTTは都庁の各局や区市町村と関わるので、「あそことあそこは同じことをやっている」というのが見えやすい位置にいます。各局や自治体は個別に予算を組みシステムをゼロから作りますが、それ

ぞれの事業にひもついた形でシステムを組むので、個々の事業執行の面では正解かもしれない。しかし、全体から見ると高コストになることもあるし、受け手の都民からすると、同じようなことを別々にやっているのだからいい。そういう部分を利用者目線ですくましく最適化する役割がGTTにはあると思っています。

——高野さんも都庁出身ですが、都庁から外に出た組織だからこそ見える視点ですか。

都庁にいると、どうしても都庁を軸に考えてしまうので、都庁とそれぞれの区市町村という関係になってしまいうまくないところがあります。横串を刺して区市町村を見るのが難しい。都内には人口が100万人

弱の世田谷区から200人になりが分かっていけば理解度は違ってくる。DXの推進は、人と人とのコミュニケーションを再構築していくことだと思っで、事例は、多様な意見を効率的に受けとめることがデジタルの強みの一つですが、加えて言うところ、声として上がってこない意見をいかに把握するかということも重要になる。DXで効率化した部分を、より人と人との関係が必要で部分に振り向けていくことも含めてDXが必要になると思っています。

——高野さんがGTTに来た部分は。

中期経営計画を作ったので、皆で向かう方向が明確になりました。GTTの職員とは団体としてより良い未来を切り開いていけるか、都民目線に立つて都民が幸福を感じられるものを提供できるのかを一緒に目指していきたい。

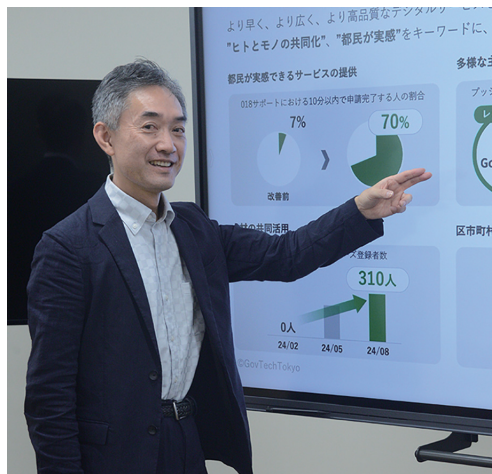
また、一緒に歩んでいく区市町村の方々には、専門的な知見を持った集団のGTTをうまく活用していただきたい。お互い悩んでいる部分は同じだったので、ちょっとしたことで相談したいし、それによって知恵も出てくる。仕事を進めるヒントになると思うので、忌憚なくいろいろ相談いただければと思っています。

——高野さんも都庁出身ですが、都庁から外に出た組織だからこそ見える視点ですか。

都庁にいると、どうしても都庁を軸に考えてしまうので、都庁とそれぞれの区市町村という関係になってしまいうまくないところがあります。横串を刺して区市町村を見るのが難しい。都内には人口が100万人

弱の世田谷区から200人になりが分かっていけば理解度は違ってくる。DXの推進は、人と人とのコミュニケーションを再構築していくことだと思っで、事例は、多様な意見を効率的に受けとめることがデジタルの強みの一つですが、加えて言うところ、声として上がってこない意見をいかに把握するかということも重要になる。DXで効率化した部分を、より人と人との関係が必要で部分に振り向けていくことも含めてDXが必要になると思っています。

また、一緒に歩んでいく区市町村の方々には、専門的な知見を持った集団のGTTをうまく活用していただきたい。お互い悩んでいる部分は同じだったので、ちょっとしたことで相談したいし、それによって知恵も出てくる。仕事を進めるヒントになると思うので、忌憚なくいろいろ相談いただければと思っています。



たかの・かつみ＝1969年生まれ。92年に都庁に入庁し、総務局行政改革課長や福祉保健局少子社会対策部長、同総務部長を歴任。23年度から都デジタルサービス局理事と兼務。休日は寺社仏閣巡りなどで気分転換。「歴史的なところを感じますよね。派遣で千代田区にいたこともあるので、日枝神社や神田神社とかよく行きます。空気が変わってくる」。大の猫好きで共に暮らす保護猫3匹とのコミュニケーションも癒やしのひと時。

なりが分かっていけば理解度は違ってくる。DXの推進は、人と人とのコミュニケーションを再構築していくことだと思っで、事例は、多様な意見を効率的に受けとめることがデジタルの強みの一つですが、加えて言うところ、声として上がってこない意見をいかに把握するかということも重要になる。DXで効率化した部分を、より人と人との関係が必要で部分に振り向けていくことも含めてDXが必要になると思っています。